

平成28年中 事業用トラックが第1当事者となった死亡事故

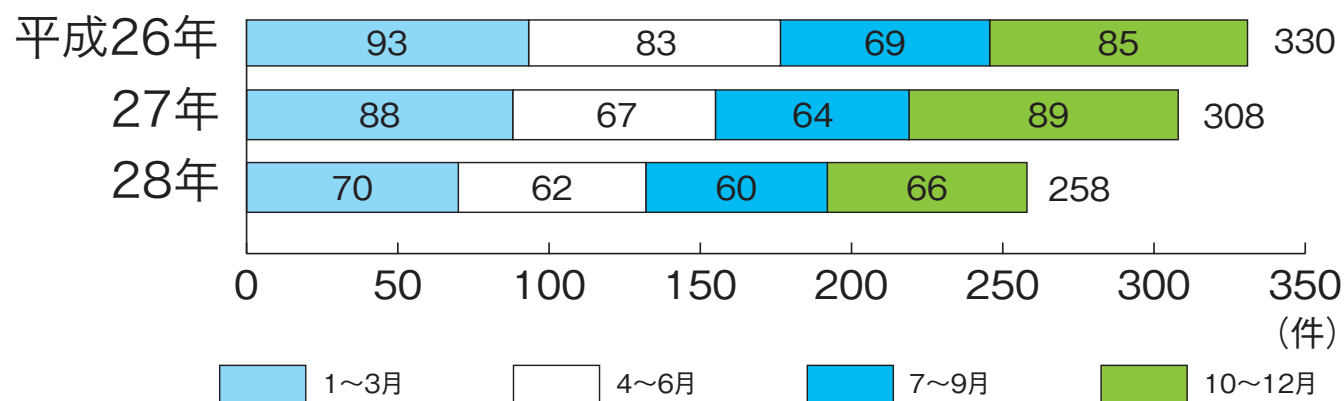
全ト協

交通事故統計分析結果(発生地別) (概要)

対象は事業用貨物自動車(軽を除く)が第1当事者となった死亡事故。また、「車両相互」での第2当事者となる「車両」には道路交通法上の「軽車両」である「自転車等」を含む。

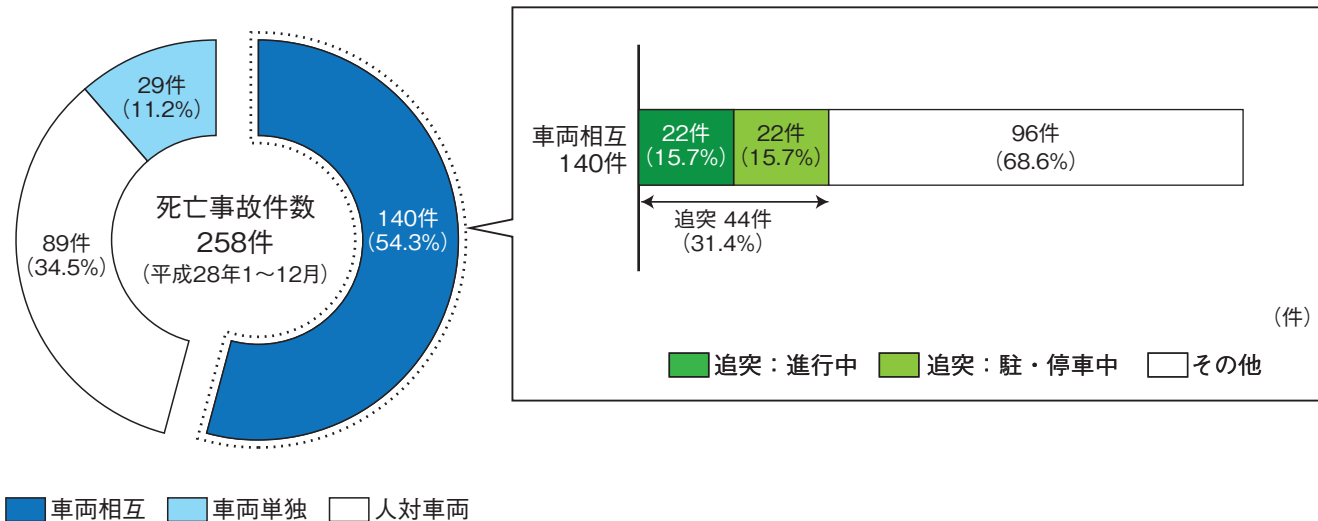
◆ 事故件数

- ・H27年1～12月の死亡事故件数と比較すると△50件となっている。
- ・営業用トラック1,245,603台(平成28年3月現在、トレーラ及び軽自動車を除く)に対する1万台当たり死亡事故件数は「2.1」となり、平成27年の「2.5」(平成26年は「2.7」)に対して0.4ポイントの減少となる。
- ・プラン2009の目標である「2.0」達成のためには、更なる事故防止対策が急務である。



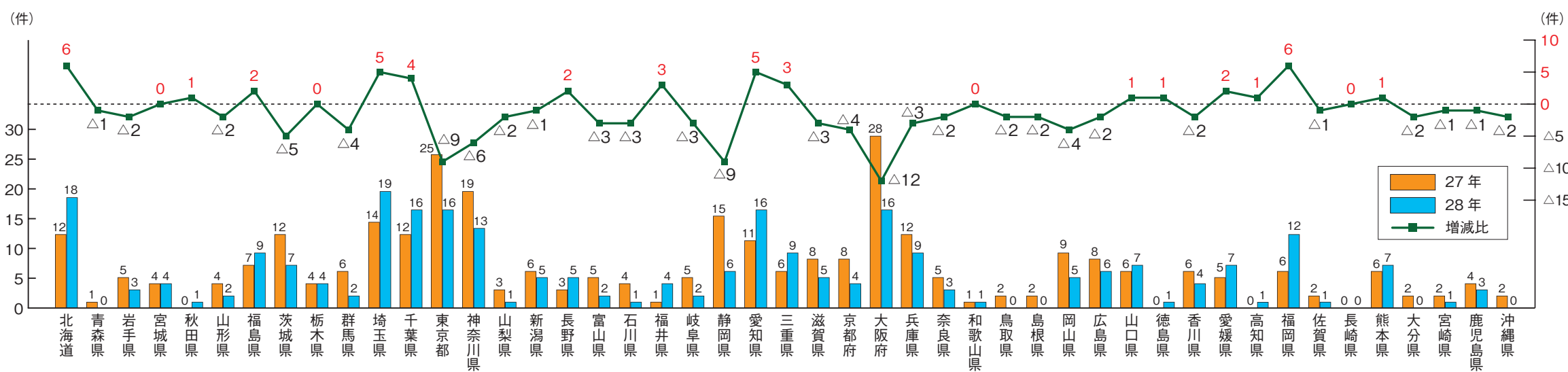
◆ 事故類型別

- ・H28年1～12月の傾向をみると、「車両相互」が最も多く140件(54.3%)と半数以上を占めている。
- ・次いで、「人対車両」89件(34.5%)、「車両単独」29件(11.2%)と続いている。



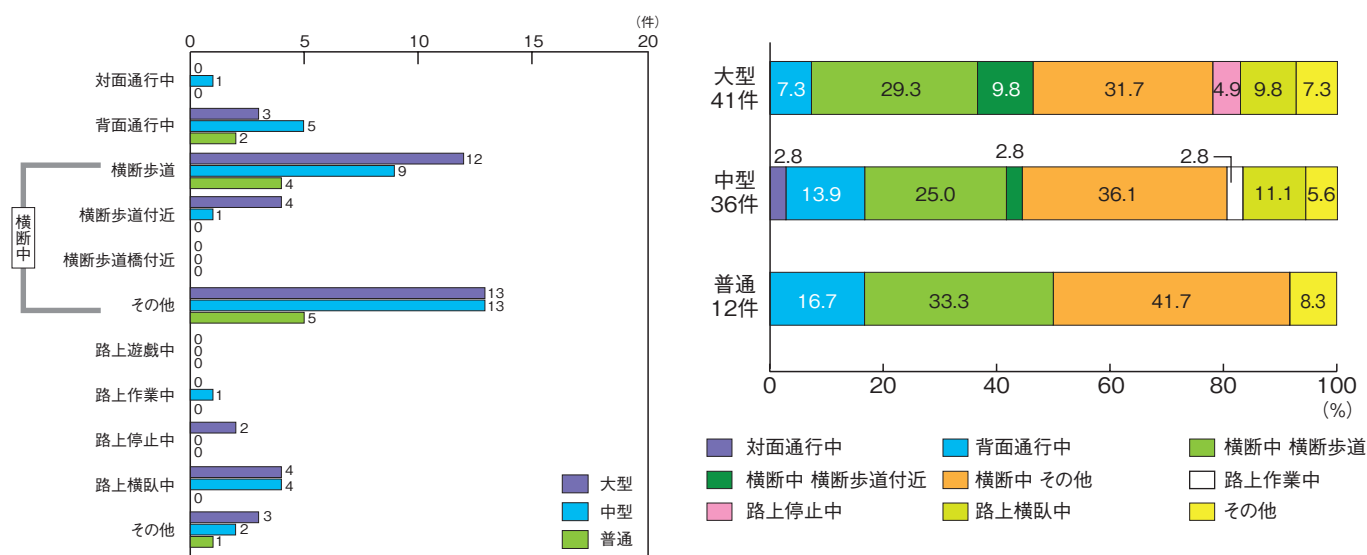
◆ 発生地別

- ・H27年1～12月の発生地別死亡事故件数と比較すると、「北海道」、「福岡県」が最も多く+6件となっている。
- ・次いで、「埼玉県」、「愛知県」がそれぞれ+5件、「千葉県」が+4件、「福井県」及び「三重県」がそれぞれ+3件となっている。
- ・一方、「大阪府」が最も少なくなっており、△12件となっている。
- ・次いで、「東京都」、「静岡県」がそれぞれ△9件、「神奈川県」が△6件、「茨城県」が△5件となっている。

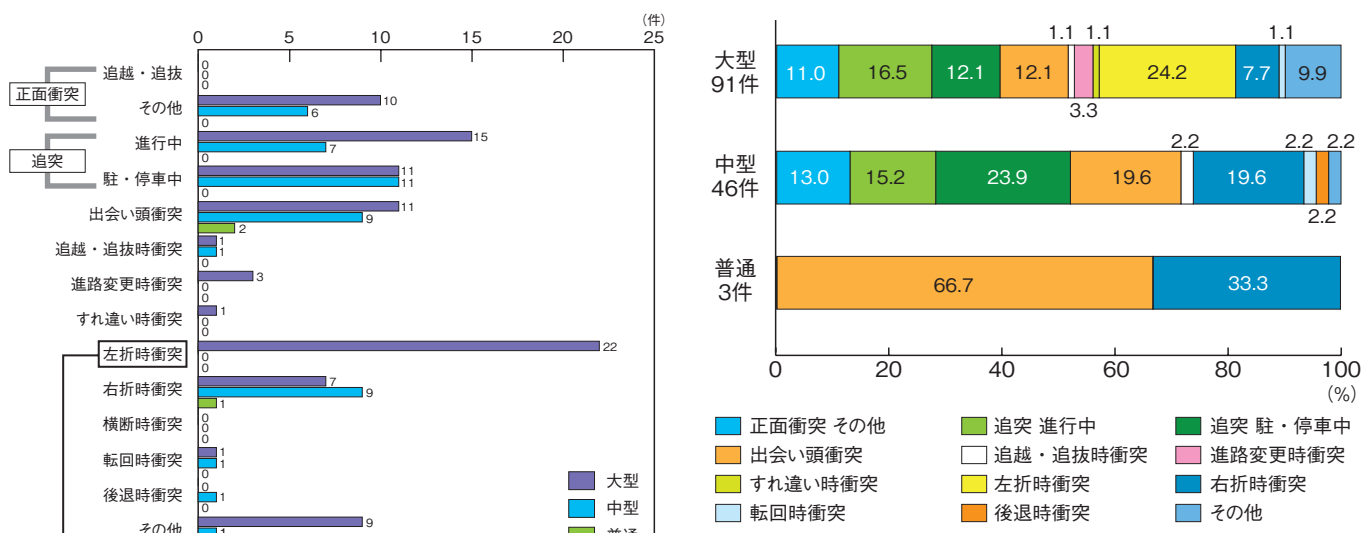


◆ 事故類型別(車両区分)

- (1) 車両区分の事故類型(人対車両)別
- ・車両区分の事故類型(人対車両)別にみると、「大型」、「中型」、「普通」のいずれも「横断中 その他」が最も多く、それぞれ13件(31.7%)、13件(36.1%)、5件(41.7%)となっている。



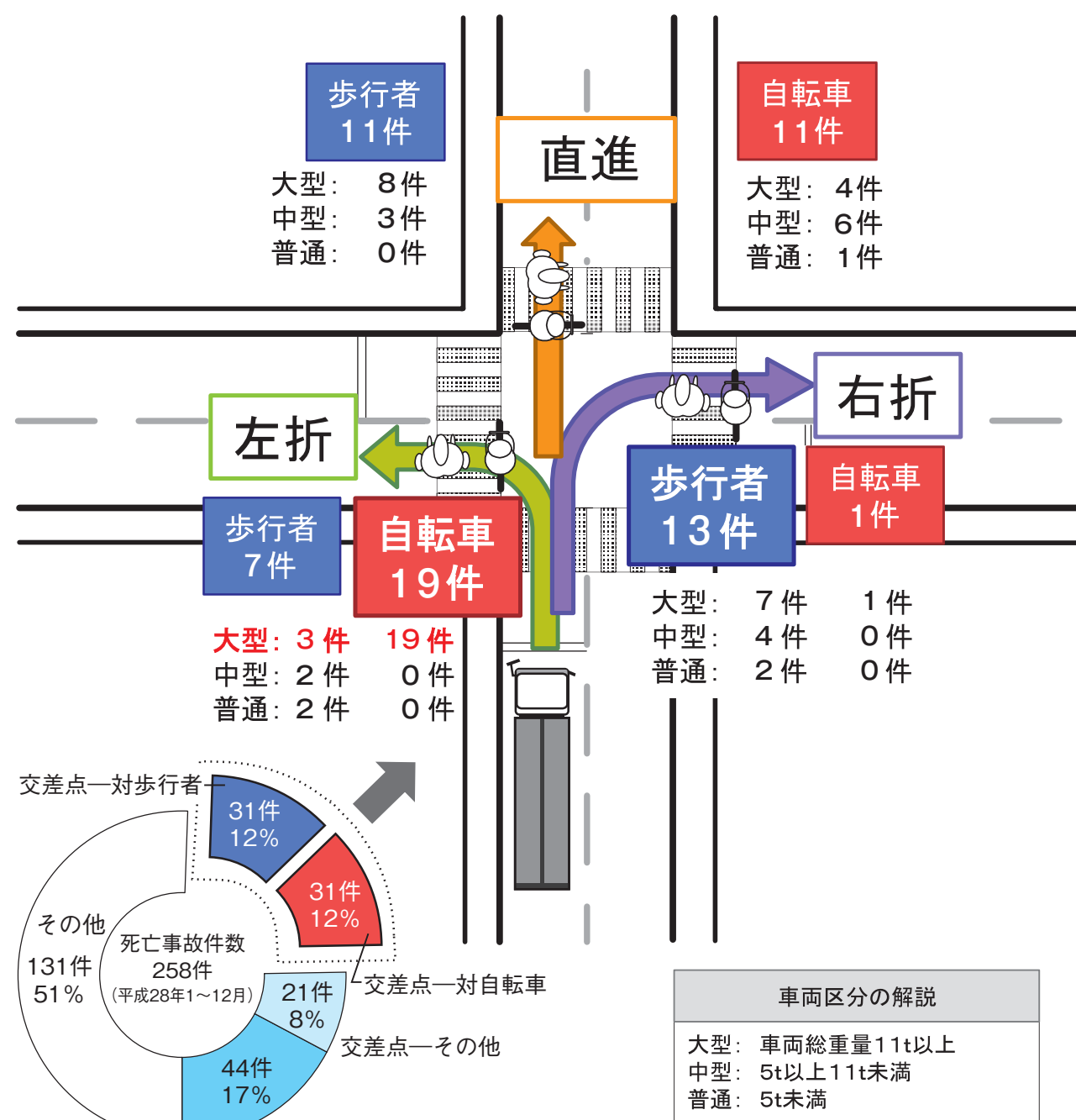
- (2) 車両区分の事故類型(車両相互)別
- ・車両区分の事故類型(車両相互)別にみると、「大型」では「左折時衝突」が最も多く22件(24.2%)となっている。
- ・「中型」では「追突 駐・停車中」が最も多く11件(23.9%)となっている。
- ・「普通」では「出会い頭衝突」が最も多く2件(66.7%)となっている。



→ 左折時衝突事故は全て大型車によるもので、22件中19件(86.4%)が対自転車事故

◆ 交差点における死亡事故(対歩行者・対自転車別)

- ・事業用トラックが第1当事者となる交差点における対歩行者、対自転車の死亡事故(62件)は、追突事故(44件)の1.4倍。
- ・左折死亡事故は、8割以上が大型車であり、対自転車(19件)が対歩行者(7件)の約3倍。
- ・右折死亡事故は、9割以上が対歩行者(13件)。



車両区分の解説

- 大型: 車両総重量11t以上
- 中型: 5t以上11t未満
- 普通: 5t未満